はじめに

オーストラリア教育視察報告

芝中学高等学校　校長　武藤　道郎

2024 年 9 月 3 日から 10 日まで 8 日間の日程でオーストラリアのブリスベン及びシドニーを訪問し、主に「先進的な ICT 教育、プログラミング教育、アクティブ・ラーニングの最新教育手法及び職業教育」をテーマとして海外研修を実施した。参加者は幼稚園・小学校・中学校・高等学校・専修学校の教員で、総勢 12 名だった。

まずもって、本研修が天気にも恵まれ、無事に終了したことについて、私たちに関わって下さった多くの皆さまに感謝申し上げる。

私たち 12 名はそれぞれが抱く目的と課題であるミッションを多くの方の協力により、大きな成果として残すことができた。その詳細については、各団員の報告書に詰まっているので、ご覧頂きたい。

大きな成果を上げることができた一番の要因は、12 名の仲が良く、楽しく日々過ごせた事に尽きる。また、コロナ禍で立ち止まった生徒たちの海外研修も新たなスタートが切れると良いと思う。特に、今回の視察先は、その準備が整っていることを確認できたので、多くの学校が今後オーストラリアを訪れてくれることに期待したい。

私が今回の視察で感じたことが幾つかある。先ずは、広大な土地や人口や多様性の観点から、日本とは違うところは多いが、テクノロジーを用いて、平等に全ての児童・生徒たちに安定した教育環境を提供するためのシステムを構築することが必然であるように感じられた。

また、多くの選択肢を作ることで、夢を抱き続けられるように、優しい教育環境があるようにも受け止められた。

次に、家庭と学校の役割は、期待も含めて、それぞれが理解しているのではないか。児童・生徒の安心・安全を、親の役割として、学校の役割として、相互がきちんと責任を持って、理解しているのではないかと感じられた。その中で、教職員はスペシャリストであり、沢山の話をしたわけではないが、教育に携わる誇りと、教職員の働き方も共有されているのではないかと実感した。

また、オーストラリアにあって、日本に足りないものは、教育の独自性ではないか、幸い私学はそれぞれの学校が独自性をもって教育を行っている。その独自性が多くの人に理解され、支持されることが、児童・生徒の夢を描き続けるヒントになるのではないかとも感じられた。

世界で活躍する人材を育成することは、日本の教育の素晴らしさを発信すること、ポテンシャルの高い日本の子どもたちに、エネルギーを注入し、動かすことなのかもしれない。

オーストラリアの素晴らしさを体感して、日本の素晴らしさを体感できることを児童・生徒に伝えられる日本であって欲しいと願うばかりである。

最後になるが、今回の研修を準備・サポート頂いた、私学財団関係者と、最終日まで笑顔で元気に研修に参加頂いた団員の皆さんに、心より感謝申し上げる。

いつかまた、皆でオーストラリアを訪ねられることを夢見て、日々の活動に繋げていきたい。